

平成29（2017）年度

## 第一回吹田市立博物館協議会

### 議 事 録（要旨）

日 時 平成29（2017）年 5月19日（金） 午前10時00分～午後0時05分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 一瀬・村田・広瀬・伊藤・佐久間・辻本・内山・大元・大森・浦田・喜田委員

\*田中委員に代わり浦田委員、岸本委員に代わり内山委員

\*欠席 橋爪・岩崎委員

岩崎委員委任状提出

【1 開 会】 高橋主幹（出席状況の確認）

（高橋主幹）出席委員数は全委員13名の過半数を超えています。

第一回吹田市立博物館協議会は成立しています。

【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

【3 職員の異動】 高橋主幹

\*職員異動【博物館組織図・職員配置図（資料P2）参照】

地域教育部 次長落が着任。（4月1日着任）

文化財保護課長増田が退任し、文化財保護課主幹西本が課長に着任。（4月1日着任）

庶務担当河合が着任。（4月1日着任）

【4 傍聴者】 なし

【5 議長・副議長】 議長は一瀬委員 副議長は村田委員

【6 案件（1）事業報告（平成28年度後半～）】

（議長）案件が3件あります。

案件（1）事業報告（平成28年度後半～）について事務局から説明。

- ・資料P3。平成4年度から平成28年度までの年度別観覧者数等の推移。表右端入館者総数が年間の利用者総数で観覧者数合計と講座等受講者数を合計したもの。
- ・平成28年度は、平成27年度に比べ、2,349人減少。観覧者数1,450人減、講座等受講者数899人減。
- ・27年度春季「西村公朝展」開催。例年より多くの観覧者が来館。
- ・28年度特別展等で、通常平均の入館者総数に戻る。

- ・ P 4。28年度月別入館者数と展覧会ごとの入館者数。一番右の欄、前年度27年度入館者数。
- ・ 前年度に比べ増加は、7月と8月。夏季展示が例年より千数百人増加によるものです。
- ・ 4月は少し多い。後は前年度に比べ千人から数百人減少。全体で前年度比2,349人減少。
- ・ 展覧会は27年度春季を除き平均的な数字。夏季展示は、2千人近く増加。
- ・ イベントの充実と実行委員が常駐し展示説明を通して、来館者に楽しさを味わってもらいリピーターが増加。
- ・ 観覧者の傾向は、資料P25からP29までグラフを添付。
- ・ P25。特別展別〔展示別観覧者・講座等受講者・入館者数〕の年間の推移を表しています。緑線が入館者総数。
- ・ 夏季展示は、昨年に比べ5,773人で増加。他は同じ傾向です。
- ・ 秋季は、他の外部イベント、出張展示等が含まれて9千人以上。展覧会自体は、約3千人。
- ・ 下段グラフは、年齢別来館者数。例年通りで大きな変化はありません。
- ・ 特に60代・70代層が多いです。30代・40代層は、夏季展示で父母が子どもと一緒に来館されていると思います。
- ・ P26は、上段が〔吹田市内・吹田市外〕のグラフです。市内が圧倒的に多いです。
- ・ 実習展は、市外が多いです。大学実習生の家族、友人達等が来館されている結果だと思えます。
- ・ 下段は、〔男女別来館者数〕です。男性が多いです。夏季展示だけは、お母さん達が多く、女性が多いです。
- ・ P27は、展示をご覧になり〔展示が良かったと評価して頂いた観覧者の割合〕です。5段階で、約9割が「よかった」。その内「とてもよかった」が3割から6割です。概ね高い評価を頂いています。
- ・ P27〔リピーター率〕。現在開催している展示に何回見に来かではなく、その展示の期間中に博物館に何回来たかという数字です。5割、6割の方が複数回来館されています。
- ・ 市外は、1割から2割の方が複数回来館されています。
- ・ P28・29〔来館のきっかけ〕。「どこから情報を得て、来館されましたか。」です。展示ごとにグラフで示しています。市内は、市報すいたが圧倒的です。市外は、ホームページやチラシ等を情報源にされています。
- ・ 春季特別展は、他の展示に比べ様々な媒体が情報源です。昨年同様、公園掲示があります。紫金山公園に掲示板を設置しているので、公園に来られた際にご覧になって来館された方が多いです。観覧者については以上です。

(事務局) P5～P14。〈平成28年(2016年)12月3日～平成29年(2017年)5月18日〉までの事業報告。

(議長) 案件1は、事業内容の確認と事実関係の質問に限定し、案件2で案件1を踏まえて委員のご意見を頂きたいと思えます。平成28年度後半で質問等如何でしょうか。

(委員) P5。秋季特別展の観覧者数1,535人と総入館者数9,443人ですが、いろいろな講座等受講者数ですか。この期間中の様々な講座数がトータルで入っていると理解してよろしいですか。

- ・ もう一点は、P6「むかしのくらしと学校展」で見学校27校ですが、市内全体は何校ですか。

(事務局) 秋季特別展総入館者数は、10月・11月の特別展以外の行事人数も入っています。11月に国立民族学博物館で北大阪ミュージアム・ネットワークのミュージアムメッセ・岸部プラザで出前展示を行い約6千人でした。この約6千人を引くと博物館で展示のご観覧と関連講座・講演会に参加

された人数になります。小学校全体数は36校です。見学は27校、出前授業は7校です。

(議長) 2校は見学と出前授業がなかったということですか。

(事務局) 見学も出前授業もありません。

(議長) 2校への対策は。

(事務局) 27年度は、全小学校でした。管理職・担任に見学や出前授業を働きかけたいと思います。

(議長) P28。最近博物館でも掲載している〔フェイスブック〕が0%。学びの情報はウエイトを占めていますが実態を説明してください。

(事務局) 0%は小数点以下を切り捨てています。0.何%ありますが一件とか二件です。資料に表記した時は0%にしています。全く無いものは項目を設定していません。

- ・〔学びの情報〕は、教育委員会に「学びの支援課」があります。その課が教育委員会等の開催する講演会、講座、イベント等を全てまとめ広報する冊子を年三回刊行しています。それをご覧になって来館されています。

(議長) 案件(2)平成29年度(2017年度)後期～30年度(2018年度)前期事業計画

(案)について、事務局より説明をお願いします。

- ・P15～20。平成29年度(2017年度)後期～30年度(2018年度)前期事業計画(案)の説明。

(議長) 展示計画の概要を事務局説明してください。

- ・P16～20。企画展・さわる月間・夏季展示・博物館実習展・秋季特別展の説明。

(議長) 展示計画案と今回の中期計画案について具体的に示しています。活動予定について説明して頂きました。意見も含め展示計画のアドバイスやアイデア、資料等についてもご教示をお願いします。

(議長) P17「さわる月間」。展示趣旨で「嗅覚」が入っていますが、何か具体的なものがあるのでしょうか。

(副館長) 以前、お香とか仏像と関連して、素材の木の違いの匂い等を行いました。今回は入っていません。聴覚も同じです。「触覚」のみになると思います。

(議長) 臭いを出す展示はありませんか。

(副館長) 今回の展示予定では臭いはないと思います。無臭ではないと思いますが、本来の臭いとは、違う臭いではないかと思っています。

(委員) 以前、子ども向けの体験展示をしたことがあります。石臼で煎った大豆を挽いて「きなこ」づくりをしました。挽きたての「きなこ」の匂いがいいので評判でした。

(副館長) 「むかしのくらしと学校展」も体験型を入れています。以前、そういう案を提案されたこともあります。石臼は新品を使用されたのですか。

(委員) 館蔵品を使いました。学芸員の中で様々な意見がありました。館蔵品として保存する民具収集とは別に、体験専用にする道具として古い民具を収集して、使用するという結論になりました。

(副館長) 当館の資料は衛生面で使用出来るのかどうか。その辺りを加味して考えました。検討したいと思います。

(委員) キッズプラザ大阪ではそれを予約制でやっています。新品を使っています。美濃加茂市民ミュージアムでは使用してきた石臼を使って、きなこ挽きをやり、お餅を焼き、食べるという取組みをしています。基本的には、民家に保存しているのと同じものを使っています。

(委員) P21特別展等展示中期計画(案)で、平成33年度(2021年度)に「春季特別展」十

三千里山間鉄道開通100周年記念展が予定されています。十三から分岐して、千里山へ延伸した流れでの開通100周年だと思えます。この鉄道が堺筋線総合乗り入れと千里ニュータウンとの関係で南千里・北千里へと延伸されています。その辺りの広がりや展示をされるのか、十三～千里山間一本でされるのか現時点でのお考えをお聞かせ下さい。

(事務局) 20年ぐらい前に吹田の鉄道展を開催しました。その当時、鉄道は100年前ぐらいでした。新京阪が敷かれて千里山まで伸び、沿線に住宅地が開発されていく流れの中で、鉄道を捉えて展示をしました。吹田の鉄道がどのように発展してきたのかこの視点で捉えると思います。併せて、28年度に千里山住宅展を開催したので、調査の貴重な成果を含め、沿線の開発も絡めて南千里、北千里に伸びていく阪急千里線を中心に鉄道の歴史と周辺の開発になると思います。

(委員) 北千里駅での日本初の自動改札機も含めて頂けたらと思います。

(議長) 中期計画まで話題に出ましたので、【連携事業】とか【教育普及事業】等にご意見をお願いします。

(委員) P20。秋季特別展「(仮題) 北大阪の祭り」で展示品の中心は祭りで使われたものと祭りの様子を撮られた写真ということになると思いますが、ビデオでの上映はあるのでしょうか。

(副館長) 映像も出したいと思います。土日は、お祭りを観に行く日々でビデオを撮っています。なるべく全部を観て頂けるように考えています。

(委員) 上映の場所はどこですか。

(副館長) ・ロビーに大型スクリーンを設置して、一つの祭りを3分～5分エンドレスで上映し、椅子に座っての観賞を考えています。

・パソコンを活用して、この祭りこの祭りと選択方式を図書コーナーに設置する考えです。

・大型スクリーンと一人一台しか対応できませんが、併用を考えています。

(議長) 祭りでも音を聞かせることに重点を置いた展示とかは如何ですか。

(副館長) 音になりますと「かね・太鼓」の類になりますが、現物を使用しても良いかどうかです。音響入りのビデオを使いますので、祭りの雰囲気は味わって頂けると思います。

(委員) ・2点お聞きします。1点目は、【連携事業】吹田市の教職員研修は、バス1台で実施されるのですか。例年の感想をお聞かせ願います。

・2点目は、動画を撮られたら館蔵品資料にしてください。デジタル化で古写真のデジタル化もありますが、動画も資料としての取組みは重要だと思います。

・公開は YouTube にあげるのも良いと思います。特別展の前宣伝に使うのもアイデアの一つだと思います。

(副館長) ・動画は、あまり公開はできていません。開館以来撮ったのは、館蔵資料として蓄積しています。マザーテープ扱いで資料にしていきたいと思います。

・YouTube ですが、宣伝になるというお話でしたので考えたいと思います。

(事務局) バスツアー研修は、定員25名の市マイクロバスで実施します。市教育センターと連携した取組みです。幼稚園・小中教職員の募集は市教育センターが担当します。好評価を頂いています。例年定員一杯です。

(委員) 博物館と教職員とのネットワークづくりにじっくり出来る機会だと思います。

(議長) バスツアーの話題も出たのですが、学校教育との連携でご意見ありますか。

(委員) ・前年度「むかしのくらしと学校展」で、小学校2校が不参加ですが、参加して頂く方策を

考えてください。

- ・バスツアー研修も好評でしたら幼稚園、小中学校一緒という形ではなく、市教育センターとの共催研修でしたらライフステージに合わせた法定研修があります。多くの教職員の学ぶ場を作って頂いて、博物館に来させて頂けたら児童に還元できると思います。

(事務局)・バスツアーは10年経験者研修で実施しています。ライフステージに合わせるとなると課題があると思います。

- ・「むかしのくらしと学校展」は、12月中旬から始まります。社会見学は1月中旬から3月中旬ごろまでを予定しています。出前授業は、社会見学と重複しないように12月中での実施をお願いしています。学校事情により3月になるところもあります。学期末と年度末になると日程が合わない等のケースにより不参加の学校が出てきます。

(委員)10年経験者の教職員はかなりの人数がいます。他のライフスタイルの教職員に声を掛けるのも可能かなあとと思います。

(議長)出前授業ですが、展示がなくても出前授業は可能だと思います。展示前のプレイベントのような形はどうでしょう。出前授業で気に入った児童が、個人的に来館するケースもあると思います。出前授業の方は、展示期間中を外す方法もあると思いますが。

(事務局)出前授業の募集は、展示前、見学に来るまでの時期にお願いしています。可能な限り見学の時期は外しております。

(委員)・様々な事情で会期が決まると理解していますが、毎年「学校展」の会期が長過ぎると思います。学校の事情、また多くの児童に来てもらうのも理解できますが、調整・計画をして、春季・秋季特別展等の会期を長くする方向で考えてください。

- ・春休みは、学校展を開いていても個人の来館はあっても、学校の来館はないのでバランス的に展示の長さは気になります。ご検討ください。

(事務局)・会期の長さについては以前からご指摘を頂いています。展示期間の3月中旬以降をどういう展示、新しい企画展が入ってきた場合、展示時期も含めて企画展の枠で実施するのか、新たな枠を設けて春先に出来るのか等、検討したいと思います。

- ・現状は、春休み期間中、学校見学で来た児童が何回もリピーターで来館し、祖父母を含む家族で来館し、懐かしさや楽しさを共有体験しています。

(議長)出前授業は、一年中実施しても良いと思います。

(事務局)出前授業は、3年生と5年生は「お米づくり」で行っています。ご依頼があっても「この時期でない」と事情が難しい面があります。出前メニューを開発しながら、歴史学習を始めた頃には、土器を持って行くのも可能ですので、出来る限り取組みたいと思います。

(議長)時間的にあと1つか2つで、如何でしょうか。

(委員)中学校教材「吹田の歴史にふれてみよう」は、本年度は千里山地区中学校版を予定ということですが、千里山地区を対象に作成されるのですか。よく作成されているのですか。

(事務局)・市内18中学校中5中学校作成しています。

- ・中学校教材は、毎年校区を選び実施しています。昨年度は、旧吹田地域で第三中学校。旧の村とか大きな地域に2～3校あります。そこから1校モデル校的に選んで山田地区・豊津地区等で実施してきました。本年度は、千里山地区の中学校を対象に作成する予定です。

(委員)・36校全部目指すこと、出前授業を増やすことをあまり考える必要はないと思います。

- ・吹田市立博物館として何を指すのか、学校のための博物館に全力を注ぐのか、地域資料を収集するのか、全体のバランスの中で努力されている状況だと思います。学校に圧力をかけたくないです。  
(委員) 出前授業は、学芸員以外の方もされていますか。  
(事務局) ボランティアの方にもお手伝いを頂いています。  
(委員) ・かなりの実施回数です。増やすことに力を入れるのであれば、他のやり方を考える必要があります。
- ・現スタッフや体制では、外部から見ると限界に来ているように感じます。内容の精査、やり方を考える等、検証された方が良いと思います。
- ・中学校教材作成は画期的だと思います。歴史系博物館から見ると非常に参考になる良い事業です。他地域でこの様な事業はしていないと思います。  
(議長) 目的的に、展示をする意義、出前授業の意義という話だと思います。  
(事務局) ・博物館の利用率として中学生は殆ど無いという現状です。学校で宿題が出ると、調べるために来館します。普段、授業でふれ合うことはありません。
- ・社会科の授業で中学校教材を活用して、地元にはいろんな歴史的素材があることを先生にふれて頂くことで、中学生に歴史学習に興味を持ってもらうきっかけになればと考えています。
- ・奈良時代であれば吹田には瓦を製造していた窯があり、各地域にも様々な特徴があります。冊子に掲載している地域の特徴的な資料は、博物館に展示しているので来館してふれて頂けたらと思います。
- ・夏休みの課題に活用して頂くのも大きな目的です。配付した後の使用状況が課題です。  
(議長) ・案件(2)は、終わりたいと思います。
- ・案件(3) 課題討論は、いつも議論が十分できないまま終わっていますので、案件(3)に移ります。
- ・案件(3)は、より網羅的なので、案件(1)(2)で意見等控えておられた委員は、案件(3)に盛り込んで発言してください。事務局から案件(3)の説明をお願いします。  
(事務局) ・P31～39。平成28年度事業点検・評価で、例年通り一覧表にしています。
- ・前年度までとの相違点は、評価点を5段階から10段階に変えています。
- ・5段階を倍にするのではなく、5段階の4は、10段階の7～8で、7と8をどう選ぶかは、少し足りない場合は7。4でも良いという場合は8。奇数の点数もあります。主な箇所だけ説明します。  
<1. 資料の収集と保管> ・例年通りに進んでいます。29年度予算化が出来たので収蔵庫の増築が見込まれ、今年度中に1階部分に増設予定です。一般収蔵庫に収納している埋蔵文化財を増設場所に移動することで、西村公朝資料を受入れる目処が立ちました。
- ・進まないのがデータベース化です。28年度は予算化が出来ました。民俗分野は75%。他の分野は、10%、16%、30%です。対策を立てて、進めなければならぬ状況です。データベースの公開、整備も進めなければなりません。  
<2. 調査研究> ・様々な調査や特別展・出前講座に関するテーマに合わせて調査を実施し、新規資料を掘り起こしています。
- <3. 展示> ・P32以降ですが、例年通り企画展示を6回実施しています。P33企画展示を「金子雪操」・同時開催「さわる月間」として、さわる展示のやり方を変えています。「さわる展」を常設化し常設展示の中に入れ、さらにロビーを使って「常にさわれる資料を展示する」さわれる資料の常設化を行いました。「さわる月間」は、強化月間としさわる展示を充実させる一つの契機にしていきます。さわる展示を「さわる月間」とする点が大きく変わったところです。年次計画で説明があった

ように、学芸員全員で取組んでいきます。展示は、事業報告で説明しましたのとばします。

〈4. 地域学習の拠点と連携〉・出前講座での連携。出前・依頼講座で41回実施。連携は、北大阪ミュージアム・ネットワークとの連携。昨年度も北大阪ミュージアムメッセ・シンポジウムを開催実施しました。今年度も申請中です。多くの方に様々な情報発信できる機会になっています。

〈5. 市民参画〉・夏季展示の展示実行委員会、特別企画のボランティアに参加して頂いています。

・P38③ボランティア。市民向けに「学芸員体験講座」を3ヶ月に渡り10回連続で実施しました。

・内容は、学芸員の展示技術等やボランティアの市民参画、子どもたちと博物館、様々な分野の講座を実施しました。受講生の中からボランティアに参加された方も数名います。ボランティアへの参画も一つの目的でしたので意義がありました。

〈6. 情報発信〉・見てもらえるホームページをどの様に作って、どの様に発信すればよいのか検討する必要があります。ホームページのアクセス件数は、2万4千件ですが、前年度比では数千件減少です。どの様にすれば関心を持って頂けるのかも含めて、検証する必要性を感じています。

〈7. 学校教育との連携〉・「むかしのくらしと学校展」は、好評を頂いています。今年度もさらにボランティア会議（運営会議）を充実させていきます。

・夏季展示は、昨年度5千人以上の来館者がありました。理科教材としての工夫も含め、学校カリキュラムとどう関係させていくのが課題です。出前授業も検討材料です。

・P39吹田高校との高博連携。昨年度から吹田高校との「地域社会研究コース」がなくなり、授業に行くことがなくなりました。「吹田高校DAY」という名称で、一日だけ講座室で文化系クラブ美術部、軽音楽部、ダンス等の発表会という形で実施しました。今年度も「吹田高校DAY」を実施するかどうか吹田高校と協議をします。

〈8. 社会貢献〉・研修受入れを行いました。博物館実習・JICA研修は今年度もあります。学芸員インターンシップは要請があれば受入れます。昨年度は、関西大学から学芸員インターンシップ1名6日間。別途、関西大学から市役所に要請のあったインターンシップ1名9日間。

〈9. 施設の整備・維持管理〉・昨年度、博物館の駐車場に小学生の子ども達が描いた博物館案内表示用横断幕を設置しました。子ども達に博物館に来てもらい、展示物をスケッチしてそれを元に横断幕に画いてもらいました。

・施設面では、機械整備で28年度は中央監視室の中央監視盤の交換、29年度は受変電設備の更新予定です。25年経ちかなり傷んでいる箇所があります。29年度は順次交換する計画です。

(議長) これを委員の方で点数を入れて評価することになります。評価する作業が残っているので、評価をする心構えで考えてください。

(委員) ビジターセンターは吹田で環境自然系に関わる団体の一つの夢です。長い間の課題で博物館と協議してここまで辿り着きました。実現に向けて一層の努力をお願いします。

(事務局) 例年実施計画に挙げて要求はしています。

(議長) 懸案だった収蔵庫は軌道に乗りかけています。その調子でビジターセンターも。

(副館長) 収蔵庫について説明します。今ハード計画で収蔵庫の増築、特別展示室の増設、ビジターセンターの3つがハード系で、博物館がやらねばならない事業に位置づけています。いずれも億を超える予算です。なかなか一度には無理です。

・博物館で優先順位を付けさせて頂きました。一番は収蔵庫、2番目に特別展示室、一番先行していたビジターセンターが今は、3番手になっている現状です。

- ・ビジターセンターは、平成32年度設計、平成33年度建設という予定で要求はしています。まだ時間があるということで査定を受けていないのが現状です。
- ・収蔵庫は、事務局が説明した通り、平成29年度に予算が付いています。
- ・普通、建築関係の事業については、公共施設最適化計画があります。公共施設として、その建築をすることが最適なのかどうかを判断する部署があります。まずそこが判断します。その後、従来からの実施計画が、将来5年にわたっての5ヶ年計画の中で実施すべきかどうかということ判断し、その後、合格になれば、翌年度に実施することの予算査定を受けるという3段階の段取りになっています。
- ・収蔵庫は、29年度に実施計画と予算査定は通りました。予算は付いていますが、実は公共施設最適化計画に落とされていました。予算査定と同じ部署なので十分連絡が行っているはずでしたが、そこに連絡が行ってませんでした。全てがクリア出来てなく予算だけOKになっている状態です。来週早々に最適化計画をもう一度協議することになっています。頑張って認めて頂こうと思っています。間違いなく29年度中に収蔵庫が出来るというか何とかしなくてはと思っています。まだ完全にOKになったという事ではありません。

(議長) 自己点検・評価の項目だけでも盛り沢山です。何かありますか。

(委員) 質問が3点あります。①データベースを作るのにどなたが、何人ぐらい関わっているのですか。②博物館だよりはどちらの方にどれぐらいの部数が置かれていますか。③大学実習生は何人ぐらい関わられていますか。

(事務局) データベースは、学芸員全員が関わっています。各担当分野でデータベース化＝デジタル化を進めています。それを示しているのが進捗度です。歴史10%、考古16%等です。

- ・博物館だよりの配付先は、図書館・公民館・小中学校です。あとは、ニュータウン情報館等に配付しています。
- ・実習生は、今年度は14大学23人です。昨年度は10大学20名ほどです。

(委員) 博物館だよりで夏季展示実行委員の募集が載っています。市報すいた等、様々な形でボランティア募集をする方法はありませんか。

- ・データベースは学芸員資格がないと出来ないのかどうか。何かに長けている人にお手伝いして頂ければ、少しずつでも進むと思います。多くの方に募集を広報する媒体があったらと考えています。
- ・大学実習生が関わり、そのまま何らかの形でボランティアが出来るようになれば少しでも手が足りると思います。

(事務局) 市民参画制度については、今年度に入ってから学芸員で検討はしています。ボランティアやサポーター等どういう形で博物館事業に参画して頂けるのか、今年度中に報告出来るかも知れません。

(議長) 大英博物館は、資格の有無、採用条件等を事前に詳細に提示した一覧表を作成してボランティア募集しています。

(事務局) 「実行委員会」「むかしのくらしと学校展」のボランティア募集は、市報すいたに年一回活動を始める時期に募集しています。詳しい内容の募集記事は出していません。

- ・ホームページでは、市報すいたの時期に合わせて少し詳しく掲載しています。市民の方に周知できる方法を考えたいと思います。

(議長) 一覧表にした方がニーズを捉えやすいと思います。

- ・自己点検・自己評価資料は、文字が多くこの表では見辛いです。箇条書きとか文字数を制限したり、項目を整理して見やすくしてほしいと思います。私と事務局で作業させて頂いても宜しいでしょうか。



(事務局) お願いします。

(議 長) 改良したものをお送りさせていただきます。いつもの評価の委員に。

(事務局) 評価は、例年1項目か2項目をお願いしていますが、例年通りの形で宜しいでしょうか。改良版を送付しますので、よろしくお願いいたします。

- ・次回、第2回を10月に予定しています。その時に自己評価と委員評価を交えた評価を提出いたします。その時にご審議をお願いします。

(議 長) よろしいでしょうか。ありがとうございました。これで第一回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。